



南摩ダムはムダなダム 国は建設中止の勇気を持って

暮らしをとりまく空気が変わってきました

バブルがはじけてからかなりの時間が過ぎていきましたが、ようやく世の中が落ち着いてきたように見受けられる昨今、暮らしをとりまく空気が変わってきたことを多くの方は感じとっていると思います。たとえばウォーキング人口の増加によるものでしょう、いくつものごく身近な山が新聞に取り上げられたり、田舎暮らしやふるさとの味再発見などがテレビで連日紹介されています。スーパーマーケットでは昔ながらの作り方をしている衣服や服飾品などを全国から見出し、販売するところもでてきました。また日本各地の神社仏閣や城、鉄道などを特集した写真集も売上を伸ばしているということです。このような動きは、都市生活のひずみを感じ始めた人々が、風土と共に気取りのない暮らしを続けてきた地方の居心地の良さに気が付いて、それを受け入れようと回帰し始めたということではないでしょうか。昔の人が培ってきた自然との共存を体感する場所として、田舎の要素が求められる時代になったのだと思います。

南摩地区は市街地から近いわりには自然環境に恵まれていて、人々のイメージする「田舎」によく合っています。空と山と小さなせせらぎ。心身をリフレッシュさせてくれる所として、近い将来人々に求められる貴重な場所になるでしょう。このような場所に、巨大ダムを造らせてしまっているのでしょうか。

南摩ダム関連の講演会がありました

3月27日(土)、鹿沼市民情報センターにて思川開発事業を考える流域の会ほか8団体の共催による講演会が開催され、二人の講師から話を聞きました。

「水源開発問題全国連絡会」の嶋津暉之さんによる『思川開発事業の虚構 - 水のたまらない南摩ダム』では、水利権・水収支・費用負担の面から考えると思川開発事業は多くの問題点を抱えており、平成14年に計画貯水量が10,100万トンから5,100万トンに縮小されても、水を貯める事ができないダムであることが再び報告されました。また栃木県をはじめ首都圏の人口減少や、節水機器の普及などで水余りがはっきりしてきた現在、水利権の転用をはかれば新たな水源確保は必要でなく、栃木県民にふりかかる多額な費用負担を避けるためにも、ムダなダムを造らせてはいけないというのが嶋津さんの意見でした。

「ダム反対鹿沼市民協議会」の高橋比呂志さんによる「導水管による生活破壊 沢水や地下水が涸れる」では、黒川から取った水を南摩ダムに送る導水管は流域の沢水や地下水を涸れさせる怖れがあり、導水管のルートに予定されている荒井川流域でも同様であろうとの指摘がありました。すでに神奈川県津久井町の「宮ヶ瀬ダム」ではそれが現実となってしまっています。市民協議会では昨年、津久井町を視察していますが、水が流れが一筋もなく、賽の河原と化した川床が山中に続いている、沢の写真が会場に映写されました。鹿沼市は宮ヶ瀬ダムの現実を直視し、人口減少を踏まえ、新たな上水道計画の見なおしをはかるべきだというのが高橋さんの主張でした。

両氏による講演は、この事業がいまだに多くの問題点を抱えたまま浮遊していることを、大きく指摘していたと思います。(4ページにつづく)

目次:

南摩ダムはムダなダム 1

事務局より活動日誌 2

会計報告 2

川むしたんけん隊は5月23日(日) 2

田川ゆったりウォーク3 3

日本森林学会 4
傍聴記



グリーンズ
東大芦の自然を守れ！
シール
残りわずかです。
お問い合わせは
事務局または
三水堂つり具店
(0288-21-0217)へ

次回の定例会

5月9日(日)

午後2時から4時まで
今市市民活動支援センター
(0288-22-2271)
たくさんの方の参加を
お待ちしております。

事務局より・活動日誌

- 1月4日(土)「だいや川通信」16号発送作業(支援センター)
 1月10日(土)「流域の会」定例会参加
 1月17日(土)今市の水・定例会(喫茶・リンデン)
 2月7日(土)「流域の会」定例会参加
 2月21日(土)今市の水・定例会(支援センター)
 3月6日(土)「流域の会」定例会参加
 3月13日(土)今市の水・定例会(支援センター)
 3月27日(土)「流域の会」講演会参加
 3月28日(日)田川 ゆったりウォーク
 4月10日(土)今市の水・定例会(だいや川公園)

2003年度・会計報告

収入

前年度繰越金	285,356
会費	53000
寄付・カンパ	1
川虫探検・ゆったりウォーク参加費	5,099
CD売り上げ	60,000
預金利子	15
計	403,471

支出

通信費	47,980
コピー、封筒等	12,821
謝礼、	20,000
支援センターロッカー代	1,200
保険	3,315
他団体年会費、交流費	13,000
ホームページ管理料	5,000
CD作成料	34,500
プリンター	24,990
雑費	1,050
計	163,856

差引残高

239,615

今年もやります!

川むしたんけん隊

5月23日(日曜日) 午前10時より



川のなかに入り、川むしを探して名前を調べたりしますので、川に入れる服装で参加願います。虫眼鏡、ピンセット、箱めがねなどお持ちでしたら持参ください。

傷害保険加入のため、参加希望の方は住所、電話番号および氏名を事務局までお知らせください。
 主催：今市の水を守る市民の会

場所など詳細は未定です。
 決まり次第ホームページ等に掲載します

写真は去年の「川むしたんけん隊」から

会費振り込みのお願い

会計の須佐さんから会計報告がありました。本会は皆さんからの会費で運営されています。この通信の印刷・発送費用など、すべて会費からまかなわれています。2003年度はついに、この「だいや川通信」の作成・送付にかかる費用が会費収入を上回ってしまいました。

4月より新しい年度となります。入会の継続をお願い致します。前年度から振り込みが無い場合、通信の発送を停止させていただきます。

一口1,000円、一口以上を同封の振り込み用紙で郵便局にてお支払い下さい。引き続き会員として本会のご支援をよろしくお願いいたします。

おもしろ発見 川あるき 「田川ゆったりウォーク・3」

3月28日、3回シリーズ初めての晴天。抜けるような青空の下、ゆったりとウォーキングを楽しむことができました。今回は水源に近い場所のため、地形も険しく、川の流れて歩いて歩くというコースではありませんでした。それでもようやく水源にたどりつき、川の始まる地点を確かめることができた喜びは、疲れを吹き飛ばすものでした。

今市から宇都宮市内を流れ、小山市で鬼怒川と合流する田川、ようやくその水源を見ることができました。ひっそりと水を集め、蛇行しながら下っていく川の姿。みなさんは何を感じ取られたことでしょうか。

木々の向こうに、田川の始まり、小さな池が見えます。



6. 源流付近の小さな池

お昼は梅林で。ゆっくりと梅の花を眺めながら、楽しく食事ができました。

5. 泉の梅林

やっと見つけた流れ出し。小さな湿地帯で、あちこちから水がしみ出し、タカナが生えていました。



7. 源流付近の湿地



4. 磐裂神社

3. 磐裂の霊泉

磐裂霊泉で休憩。木の芽が延びる時期、いつもより水量が減っていました。



1. 出発!



青空の下、日光連山を眺めながら、スタート。

2. 自動車道路下の田川



日光自動車道路の下を田川に沿って歩く

(1ページ「南摩ダムはムダなダム」つづき)

ムダなダムはいらない!!

たくさんの声はこれからも必要です

南摩地区では住民の移転が始まっていますが、絶対反対を今後も貫き通そうと団結している方々もいます。工事の着手はまだまだ先です。それよりも財政が危機的状況にある現在、ムダなダムを造るといふ国の愚挙を私達は多くの人に知らせ、建設中止を求める声を大きく挙げていきましょう。ダムが中止された暁にはいっさい人工的な構築物を造らせず、南摩地区はそのままエコミュージアムとして次の世代に引き渡されるよう、見定めていくのが私達世代の役目だと思っています。

黒川には今市の行川の水も入っています。「今市の水を守る市民の会」会員の皆さん、鹿沼で頑張っている方々にこれからもより一層のご支援をどうかお願いします。(塚崎)

連絡先

〒321-1102 今市市板橋1732-1 森方
今市の水を守る市民の会

郵便振替口座

00140-4-535550

0288-27-2183 (8時~17時: 森)

0288-26-3324 (17時~21時: 塚崎)

ホームページ

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>

たまには「学会」傍聴も面白い

「日本森林学会」が東京大学(本郷・弥生)で開催されるとの話。情報元、Nさんの「自分は仕事でダメだけど、傍聴は自由だから行ってみたら」との言葉にそそのかされ、4月4日の小雨で花冷えのする日曜日、有志3名で行って来た。

午前のセッションで私が選んだのは「第11回・森林昆虫談話会」という小さな集まり。狭い教室がいっぱいになるほど盛況で、この分野、意外と関心を持たれていることがわかる。小学生の頃、最初に夢中になった科学読み物が、子ども向けに翻訳された「ファブル昆虫記」だった。が、今の私は虫が好きなわけでも、詳しいわけでもない。それでも、いくつかの話の聞いているうちに、最近の森林昆虫に対する考え方の変化がわかってきた。研究の対象が「木材の害虫」から、生物の多様性、森林という生態系全体の中での昆虫の役割、そして、森林昆虫を指標とした森林評価などに移っているということである。何にでも流行はある。まだ、共通の捕獲手法は確立されておらず、費用やマンパワーの

面で大変な困難があることもわかった。各県の林業試験場などで頑張っている人たちが多く、予算面のサポートが薄いのが悩みのようである。「このような基礎研究は大学でやればよい」と言われてしまうという。しかし、たとえば大量の昆虫の同定などはアマチュアの力を借りなければ不可能で、地元密着のフィールドワークが可能なグループこそ、正確なデータを蓄積できると感じた。

午後は森林と水に関するワークショップに出てみたが、途中からだったのと、専門的な洪水シミュレーションなどの話で、よくわからない。大学の先生が数式を並べて難しそうな話をしていたが、コンピュータの計算結果は、地盤の保水力や木々の吸水力などで大きく変化するらしく、その計算結果が、ダムの安全性や「緑のダム」の有効性などを議論する資料として使えるのかどうか、私にはとても理解できなかった。

私たちのような素人でも、研究の現場に触れれば、ちょっとした感想を持ちたりすることができる。なかなか楽しい一日だった。皆さんも、こんな集まりがあったら気軽に参加してみたいかがでしょうか。(T)

編集後記

2月に出張のため、有明にある会場に4日連続で通いました。朝7時に今市を出て、浅草から新橋までは銀座線、新橋駅から「ゆりかもめ」でレインボーブリッジをわたり、フジテレビなどのあるお台場を横目に見て有明まで往復。新橋付近の、道路が幾層にも折り畳まれて、どこが地上なのかわからない人工地盤の重なり。そこに植えられた植物群。都会に作り出された人工自然環境の巧妙さに、これもいろんな試行錯誤の結果なんだろうと、妙なところに感心しました。今市あたりでは、自然環境にかかる費用など「タダ」同然とってしまいます。けれど、場所によって、それはあたりまえのことではないのです。今市へ戻る電車の窓から見える東京の明るさと、鹿沼を過ぎてからの闇の対照は、あらためて東京という場所のエネルギー消費のすさまじさを感じさせます。膨大なエネルギーを費やして維持し、明るく装わなければならない場所があり、そこにエネルギーや水や食料を供給するための発電所やダムや農業が営まれる場所がある。都会の明るさしか知らない子どもたちがいるとしたら、その反対側にある、田舎の「闇」も知っておいたほうが良い。その子が、何かを考え始めるきっかけになるかもしれません。(手塚)

